16　番組番号は、b_{43}を最下位ビット、b_{54}を最上位ビットとし、4096の番組番号を識別する。

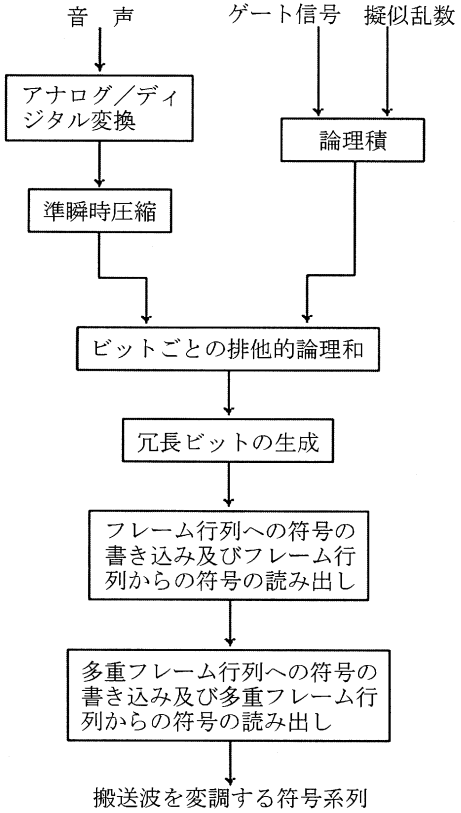
17　番組時刻情報の開始時刻の「時」は、b_{55}を最下位ビット、b_{59}を最上位ビットとし、24時間制で表す。開始時刻が未定であるときは、b_{60}は「１」とする。開始時刻が予定であるときは、b_{61}は「１」とする。開始時刻の「分」は、b_{63}を最下位ビット、b_{68}を最上位ビットとして表す。終了時刻の「時」は、b_{71}を最下位ビット、b_{75}を最上位ビットとし、24時間制で表す。終了時刻が未定であるときは、b_{76}は「１」とする。終了時刻が予定であるときは、b_{77}は「１」とする。終了時刻の「分」は、b_{79}を最下位ビット、b_{84}を最上位ビットとして表す。

18　メッセージ信号に用いる文字符号は、別記に示す８単位符号とする。

19　メッセージ信号の文字符号列は、メッセージ信号をビット番号順に８ビットごとに符号に区切り、順に配列する。それぞれの文字符号はビット番号の小さい方を最下位ビットとする。２データパケット構成の場合は、第１データパケット、第２データパケットの順に配列する。

20　メッセージ情報は、番組の補完情報として必要なときに送出する。

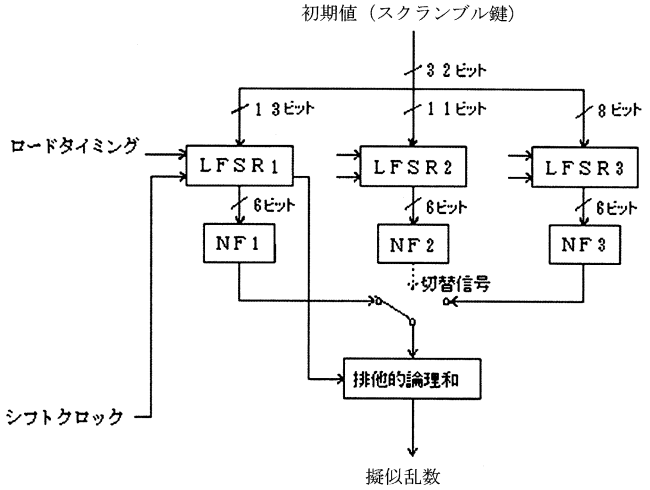
別図第一号　音声信号に対する擬似乱数符号系列の演算の位置



注１　ゲート信号は、スクランブルを行う音声チャネルの音声標本語に対しては「１」、行わない音声チャネルの音声標本語に対しては「０」とする。

２　冗長ビットは、フレーム行列の第２列から第57列までの符号に対する冗長ビットをいう。

別図第二号　擬似乱数符号系列の生成方法



注１　ＬＦＳＲは線型フィードバックシフトレジスタを示す。

２　ＮＦは非線型論理を示す。

３　音声信号のスクランブルに用いる擬似乱数符号系列は、次のとおりとする。

フレーム行列		擬似乱数符号系列					
		スクランブルに使用しないビット		擬似乱数 第１音声チャネルの音声標本語のスクランブル用	擬似乱数 第２音声チャネルの音声標本語のスクランブル用	スクランブルに使用しないビット	
番号	行＼列	1	2	3 … 12	13 … 22	23 … 57	58 … 64
1	1	(P_0)	(P_1)	P_2P_3 … P_{11}	P_{12} …… P_{21}	$(P_{22}$ …… $P_{56})$	$(P_{57}$ …… $P_{63})$
	2	(P_{64})	(P_{65})	P_{66} …… P_{75}	P_{76} …… P_{85}	$(P_{86}$ …… $P_{120})$	$(P_{121}$ …… $P_{127})$
	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
	32	(P_{1984})	(P_{1985})	P_{1986} ……	…… P_{2005}	$(P_{2006}$ … $P_{2040})$	$(P_{2041}$ … $P_{2047})$
2	1	(P_{2048}) ……					
	⋮	⋮		以下同様			⋮
	32						…… (P_{4095})
⋮	⋮	(P_{4096})……					

備考１　標本化周波数が３２kHzで第１音声チャネル及び第２音声チャネルを使用したときの例示である。

２　擬似乱数符号系列の生成器に初期値がロードされた時点の別図第二号の排他的論理和の出力ビットの値をP_0とし、以下ｉクロックシフトした後の排他的論理和の出力ビットの値をP_iとする。

３　（　）内は、スクランブルには使用されないことを示す。